

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	大崎上島町立東野小学校		
学校長氏名	平田 修	栄養教諭氏名	横畑 みず江
職員数	21 名	児童・生徒数	52 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・赤・黄・緑のそろった朝食を5日食べることができていない児童が14%いる。
- ・腰骨を立て足ピタで給食を食べていない児童が23%いる。
- ・かむことや飲み込むことに時間がかかる児童がいる。
- ・魚を食べることが苦手な児童が多い。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・栄養バランスのよい朝食を5日以上食べている児童の割合を90%以上にする。
- ・正しい姿勢で食事をする子どもの割合を80%（児童自己評価）にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 栄養バランスのよい朝食を食べよう

児童は「がんばり週間」中、朝食で食べた食品を「赤・黄・緑」に分け、○をするようにしている。その結果をもとに、なぜ食べられないのか、どんな工夫をすればよいか個別指導を行った。

栄養バランスのよい朝食の必要性を指導し、食べていない児童には、なぜ食べられないか原因を考えさせ、アドバイスをし、その中で児童自身ができる工夫を自分で決めるように養護教諭と個別指導を行っている。また、対象児童の保護者には学期末懇談等において、生活習慣や食事の内容などの聞き取りを行い、声掛けや食事の工夫など協力をお願いした。その結果5月の「がんばり週間」87.2%が1月の「がんばり週間」では90.2%と栄養バランスのよい朝食を食べる回数が増えてきた。

【取組2】（テーマ） 腰骨を立て足ピタで食器を持って食べよう

姿勢は学習にも健康にも大きな影響を与える。そこで正しい姿勢で生活する習慣をつけるため、授業中と給食時間に、「腰骨を立て、足ピタをする」ように指導を進めている。

まず児童に正しい姿勢を意識させるため、一人一人の「腰骨を立て足ピタで食器を持っている」姿を写真にし、自分の理想の姿を確認させた。

その後、課題のある児童には児童同士や教職員が声掛けを行ったり、全員ができていない学年は給食時間に発表したりして意欲づけを行った。

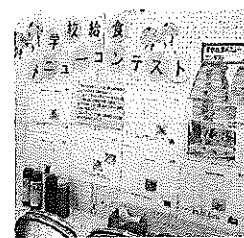
その結果1月には84.3%の児童が給食時間に「腰骨を立て足ピタで食器を持って食べている」と自己評価をし、「勉強するときや給食時間に腰骨を立て足ピタをがんばった」と振り返っている児童が増えてきた。

【取組3】（テーマ） 地場産物を活用した給食メニューの活用

大崎上島町の小学5年生・6年生、中学生を対象とした地場産物を活用した給食メニューのコンテストは今年度で3回目となった。入賞したメニューは給食で提供し、保護者や役場の方への配付を行ってきた。

そして、今年度は大崎上島町教育委員会と食育推進協議会と連携し、産業文化祭

「すみれ祭り」の食育推進協議会のブースでコンテスト内容の掲示とレシピの配付を行うように取り組んだ。地域の方に学校給食の展示を見ていただき、地場産物を活用した給食メニューレシピを300人以上の方に渡すことができた。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

今年度から児童生徒が、普段から「ひろしま給食100万食メニュー」を身近に感じるように、ひろしま給食100万食メニューを必ず1品は給食メニューに組み込むように町内で取組を進めた。また、大崎上島町健康福祉課と連携し「夏休み子供料理教室」のメニューに「平成28年度ひろしま給食100万食メニュー」の「ひろしま まんぷくシャキシャキサラダ」を親子で実習する機会を作ることもできた。

7月・9月・10月の給食時間に広島県教育委員会作成の「つくって！食べよう！ひろしま給食」を使い、調理を作るコースについて、できる事からチャレンジできるよう給食時間に詳しく説明を行い、さらに全校児童に平成25年度から平成28年度の「ひろしま給食100万食プロジェクト」メニューのレシピと食数表を配付し、集計を行った。

これらの取組により家庭で食べた数は1,114人、調理した回数は237回となった。また、プロジェクトに参加した感想には「今度はこれを一緒に作ってみよう。」「一緒に作れて楽しかった。」という家庭の様子以前より多くよせられるようになった。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・個別の保健指導を行ったことで、児童の意識が変わり、バランスのよい朝食をとるためにお家の人に買い物を頼み、翌日から食べてくることができた。
- ・自分の「腰骨を立てた正しい姿勢」を確認し、どこができていないか注意しあえるようになった。学年のみんなで「腰骨を立て足ピタで食器を持って食べよう」とする意識を持つことができた。
- ・「ひろしま給食100万食プロジェクト」については過年度メニューを作っている家庭も多く、取組が家庭に普及してきたことがうかがえる。

【課題】

- ・「腰骨を立て足ピタで食べる」と指導をした後は気をつけて「正しい姿勢」で食べているが、時間がたつと無意識に元の姿勢になってしまう。家庭も巻き込んだ指導を行い、継続して取り組む必要がある。
- ・高学年になっても調理体験がない児童がいる。児童は「夏の食事チャレンジ」や「冬の食事チャレンジ」で「お家のお手伝い」の項目を入れているが、調理のお手伝いが難しい家庭がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・バランスのよい朝食をとることも腰骨を立て足ピタで食器を持って食べることも家庭の協力が不可欠である。児童に良い食習慣を身につけさせるため、強化週間を設け保護者も含めた個別指導を行う。
- ・自分で自分の食事が作れるように学年に応じた調理実習を計画する。